

1 平成17年の漁獲状況

表1 漁獲量及び漁獲金額の推移(水産漁港課調べ)

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
平成3年	55.5	16.6	72.1	109,232	53,565	162,797	1,968	3,227	2,258
平成4年	37.3	-	37.3	平成4年9月～7年9月(禁漁期間)					
平成7年	53.8	88.7	142.5	196,724	239,821	436,545	3,657	2,704	3,063
平成8年	86.1	157.2	243.3	224,559	280,367	504,926	2,608	1,784	2,075
平成9年	161.1	290.8	451.9	269,968	500,542	770,510	1,676	1,721	1,705
平成10年	158.4	436.8	595.2	211,974	411,386	623,360	1,338	942	1,047
平成11年	157.6	579.1	736.7	192,519	594,968	787,487	1,222	1,027	1,069
平成12年	157.2	901.8	1,059.0	155,087	565,756	720,843	987	627	681
平成13年	451.5	986.3	1,437.8	422,572	638,461	1,061,033	936	647	738
平成14年	471.8	1,570.1	2,041.9	307,990	530,312	838,302	653	338	411
平成15年	956.1	2,058.6	3,014.7	480,713	608,158	1,088,871	503	295	361
平成16年	779.9	2,348.7	3,128.6	331,755	678,022	1,009,777	425	289	323
平成17年	488.6	1,866.6	2,355.2	248,165	555,949	804,114	508	298	341
H17/H3	8.80	112.45	32.67	2.27	10.38	4.94	0.26	0.09	0.15
H17/H16	0.63	0.79	0.75	0.75	0.82	0.80	1.19	1.03	1.06

沖合は暦年、沿岸は漁期データ。

表2 漁獲可能量と漁獲実績の推移(水産漁港課調べ)

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成7年	85	53.3	62.8	85	88.7	104.4	170	142.0	83.6
平成8年	110	81.3	73.9	110	157.2	142.9	220	238.5	108.4
平成9年	180	153.3	85.1	180	290.8	161.6	360	444.1	123.3
平成10年	300	178.5	59.5	300	436.8	145.6	600	615.3	102.6
平成11年	400	143.0	35.7	600	579.1	96.5	1,000	722.1	72.2
平成12年	400	260.3	65.1	600	901.8	150.3	1,000	1,162.1	116.2
平成13年	520	547.8	105.3	780	986.3	126.4	1,300	1,534.1	118.0
平成14年	680	384.5	56.5	1,020	1,570.1	153.9	1,700	1,954.6	115.0
平成15年	960	903.9	94.2	1,440	2,058.6	143.0	2,400	2,915.4	121.5
平成16年	1,000	787.9	73.3	1,500	2,348.7	156.6	2,500	3,081.5	123.3
平成17年	1,000	433.5	43.4	1,500	1,866.6	124.4	2,500	2,300.1	92.0

平成10年以降は管理漁期(9～翌6月)データ。今漁期の沖合の達成率は12月末時点。

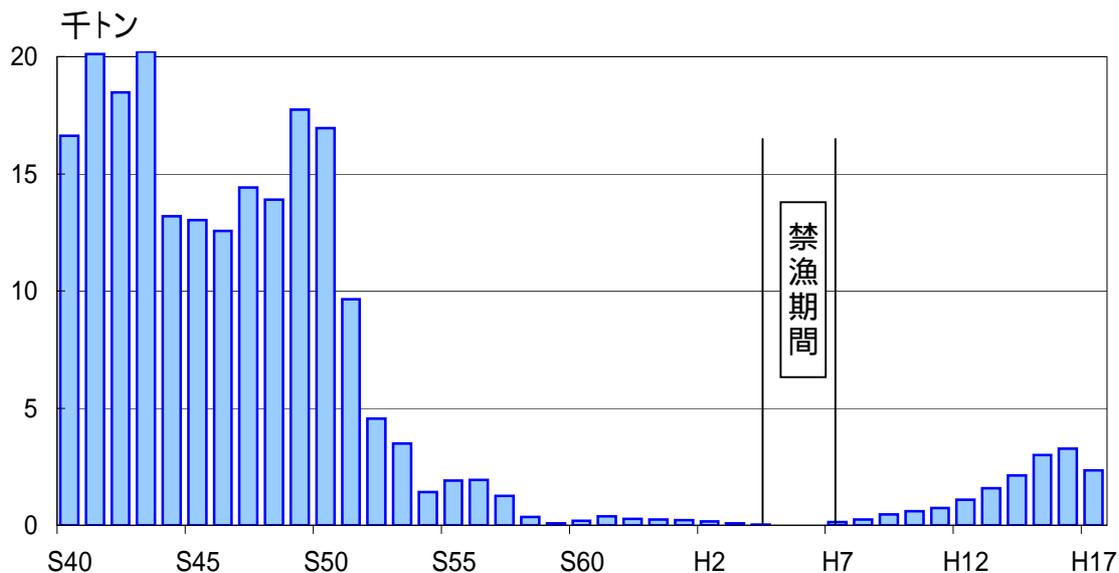


図1 秋田県のハタハタ漁獲量の推移

- ・平成17年の漁獲量は2,355トン(暦年分、水産漁港課調べ)。
- ・平成7年の禁漁解除以後の最高値を更新し続けていたものの、初めて前年を下回った。
- ・前年比72%と大きく落ち込んだが、平成7年以降では3位の水準。

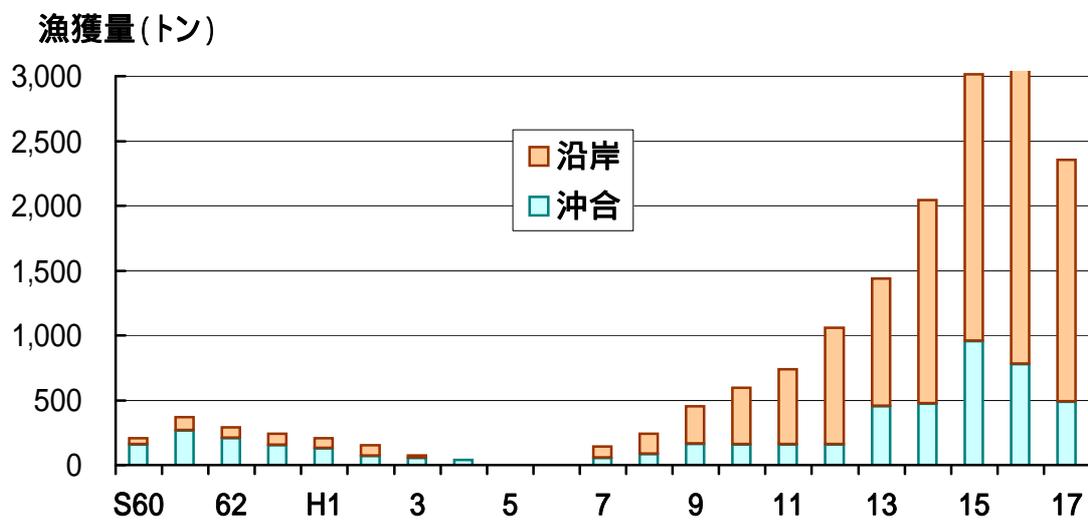


図2 沖合・沿岸別漁獲量の推移

- ・前年比は、沿岸で79%、沖合で63%と沖合の減少が大きかった。

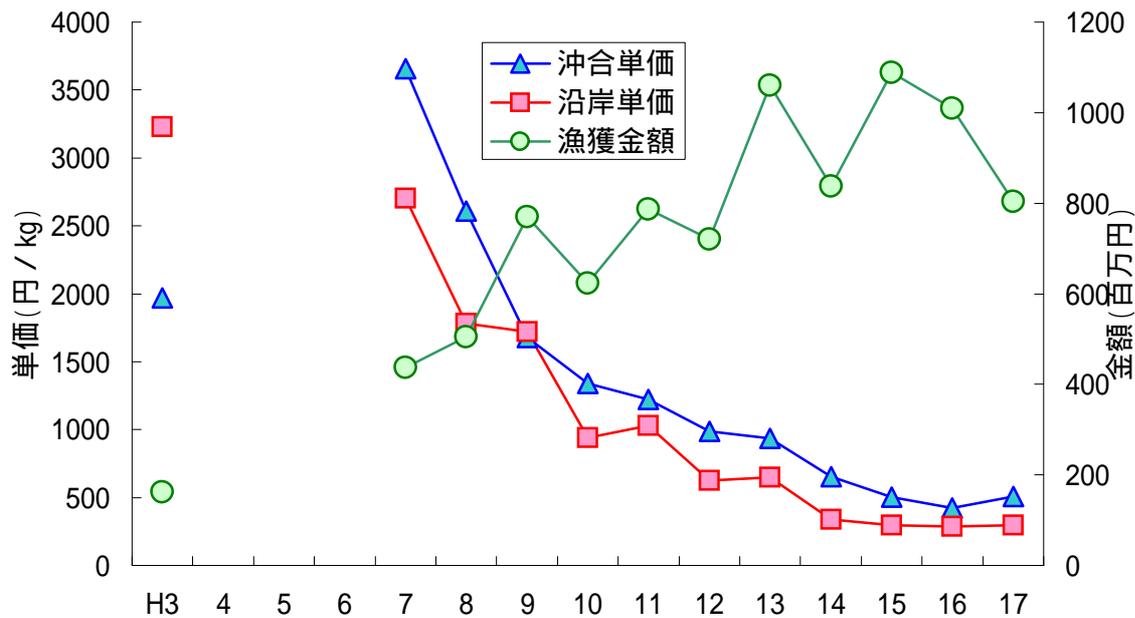


図3 ハタハタの単価と金額の推移

- ・漁獲金額は約8億円と、前年比80%と減少し、平成14年並みの水準となった。
- ・沿岸・沖合とも、単価の下落傾向に歯止めがかかり、沿岸で前年比103%、沖合で119%と、沖合での単価の伸びが大きかった。

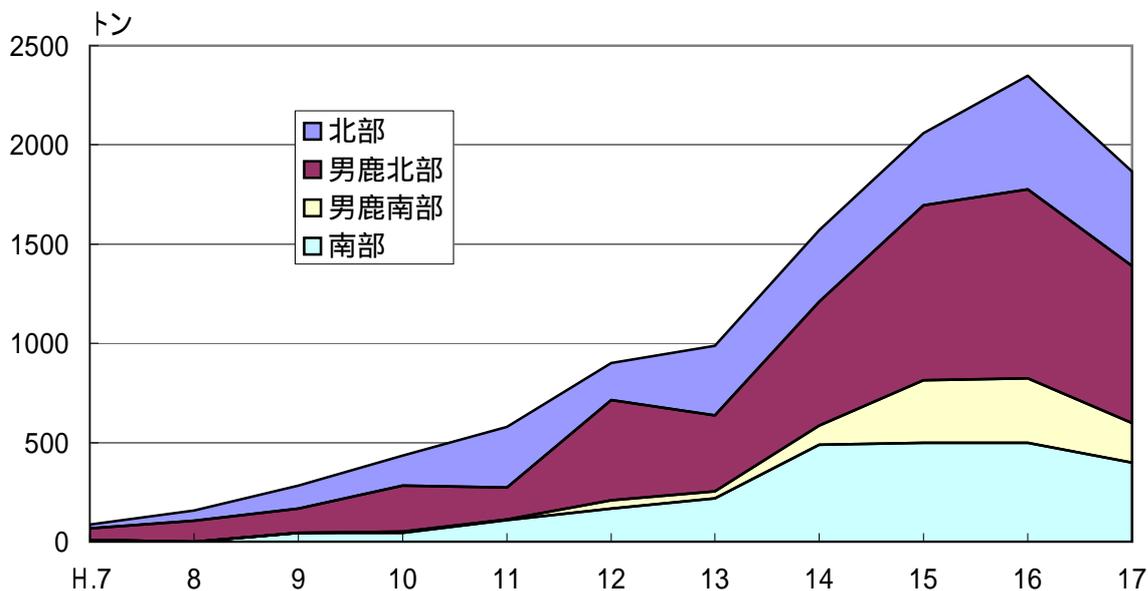


図4 沿岸地区別漁獲量の推移

- ・地区別の漁獲割合は、近年と類似している。
- ・全体の42%(791t)を男鹿北部で占め、県北部26%(478t)、県南部21%(397t)、男鹿南部11%(201t)で、県北部の割合がやや増加(前年24%)し、男鹿南部でやや減少(前年14%)した。

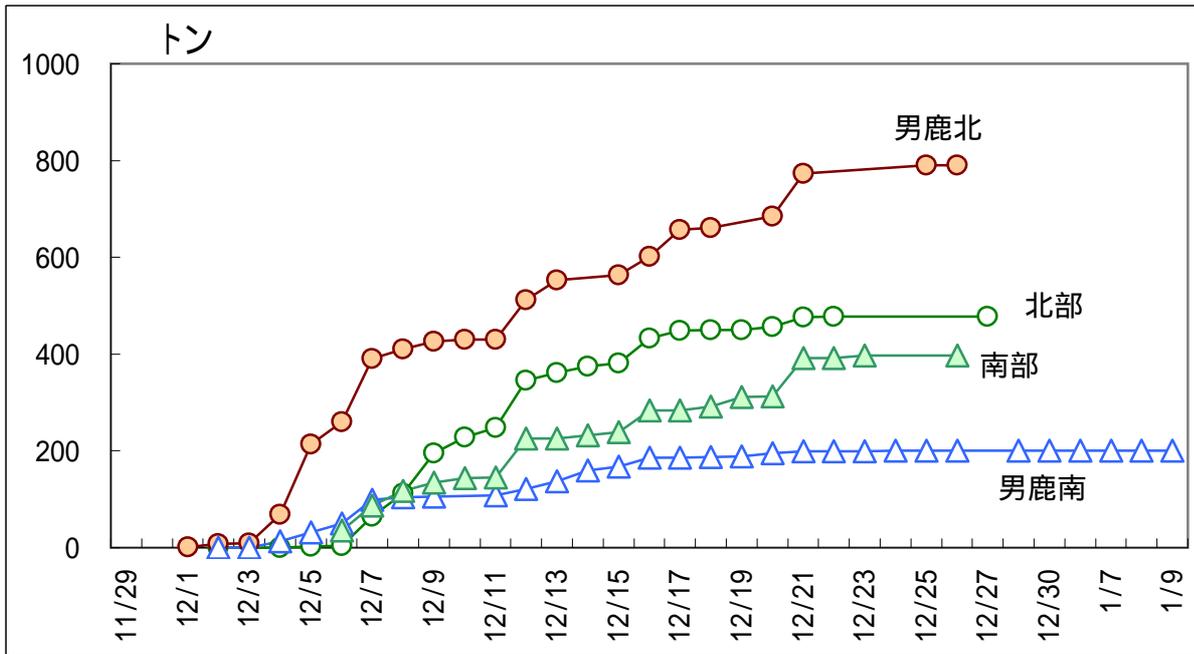


図5 沿岸日別漁獲量の推移(累計)

- ・初漁は北浦地区の12月1日夜で、翌2日には南部以外の各地区で初漁となった。
- ・北浦を中心とする男鹿北部は、他地区に比べ早いペースで盛漁となり、累計で790トンに達した12月26日で終漁となったが、水揚げの増加は漁後半も持続した。男鹿北部以外の各地区は、12月23日以降は水揚げの伸びがほとんど見られない。
- ・全地区の終漁は1月9日となった。

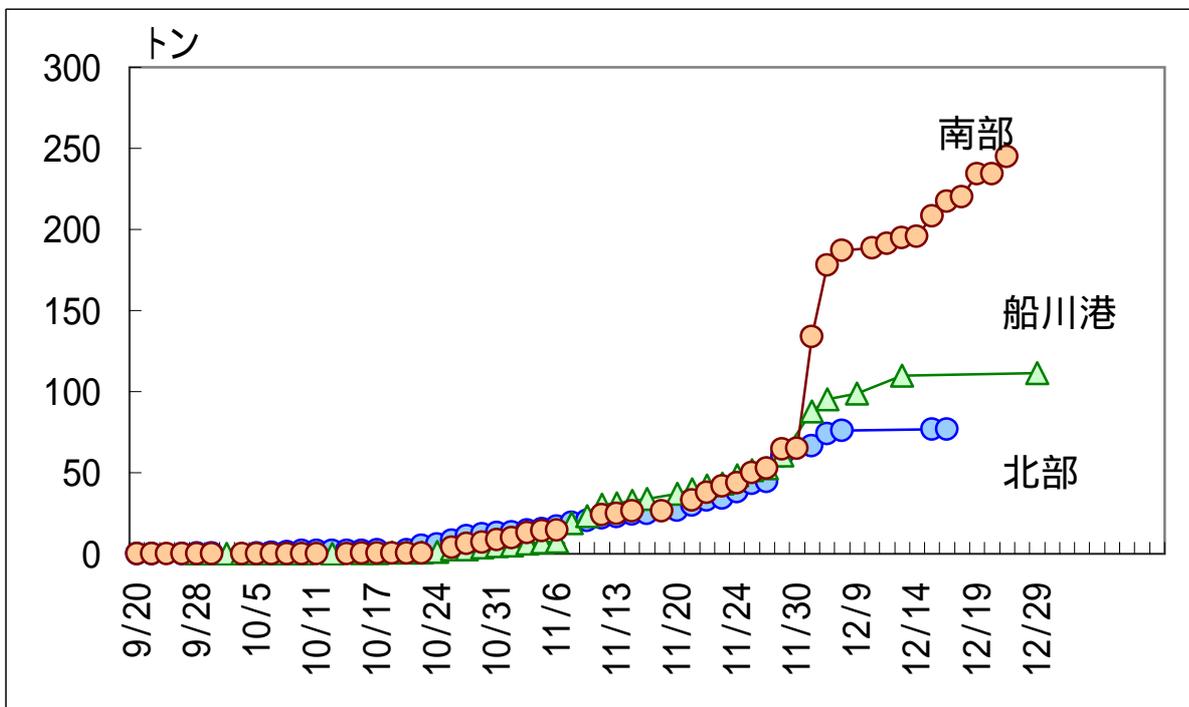


図6 沖合地区別漁獲量の推移(累計)

- ・9月20日の解禁以降は低調に推移し、11月中旬以降に水揚げが増加した。
- ・沖合の盛漁期は、沿岸初漁日までは緩やかに増加し、沿岸初漁以降に急増するパターンとなっている。

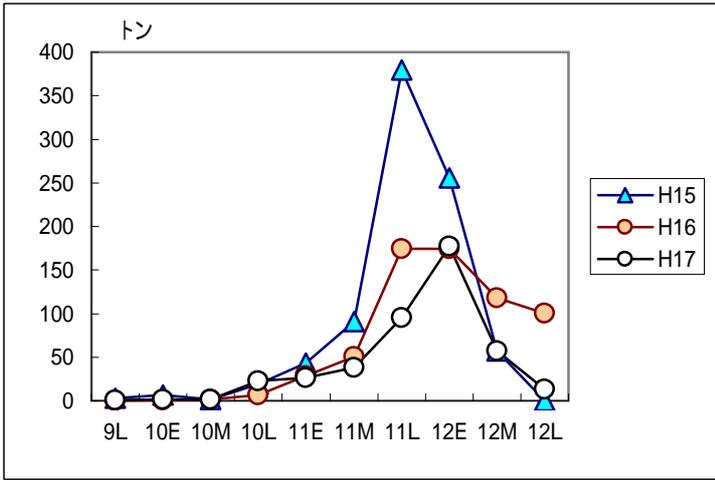


図7-1 旬別漁獲量

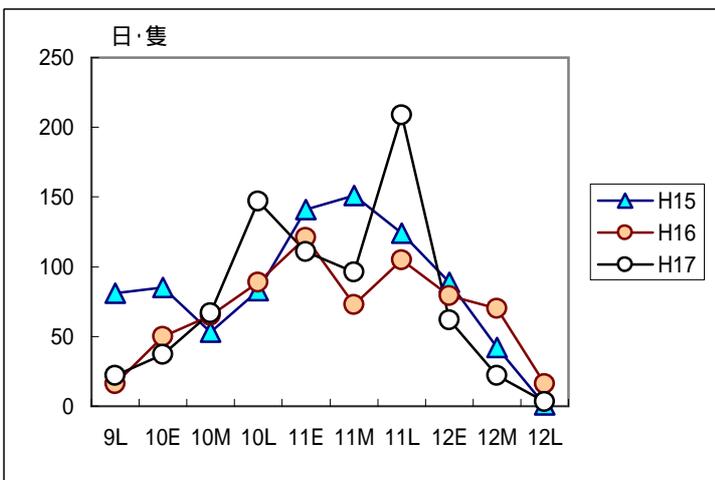


図7-2 旬別出漁隻数

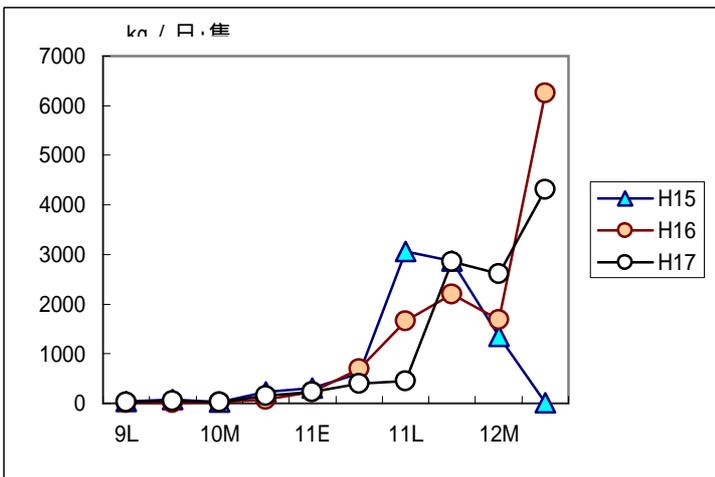


図7-3 旬別CPUE

・今漁期の底びき網漁の不振は、例年であれば11月下旬に増大するCPUE(1日1隻当たり漁獲量)が低かったことが大きく影響している。
 ・また、12月上旬以降は、延出漁隻数の減少が水揚げの減少につながったことが推察される。

2 ハタハタ資源調査結果の概要

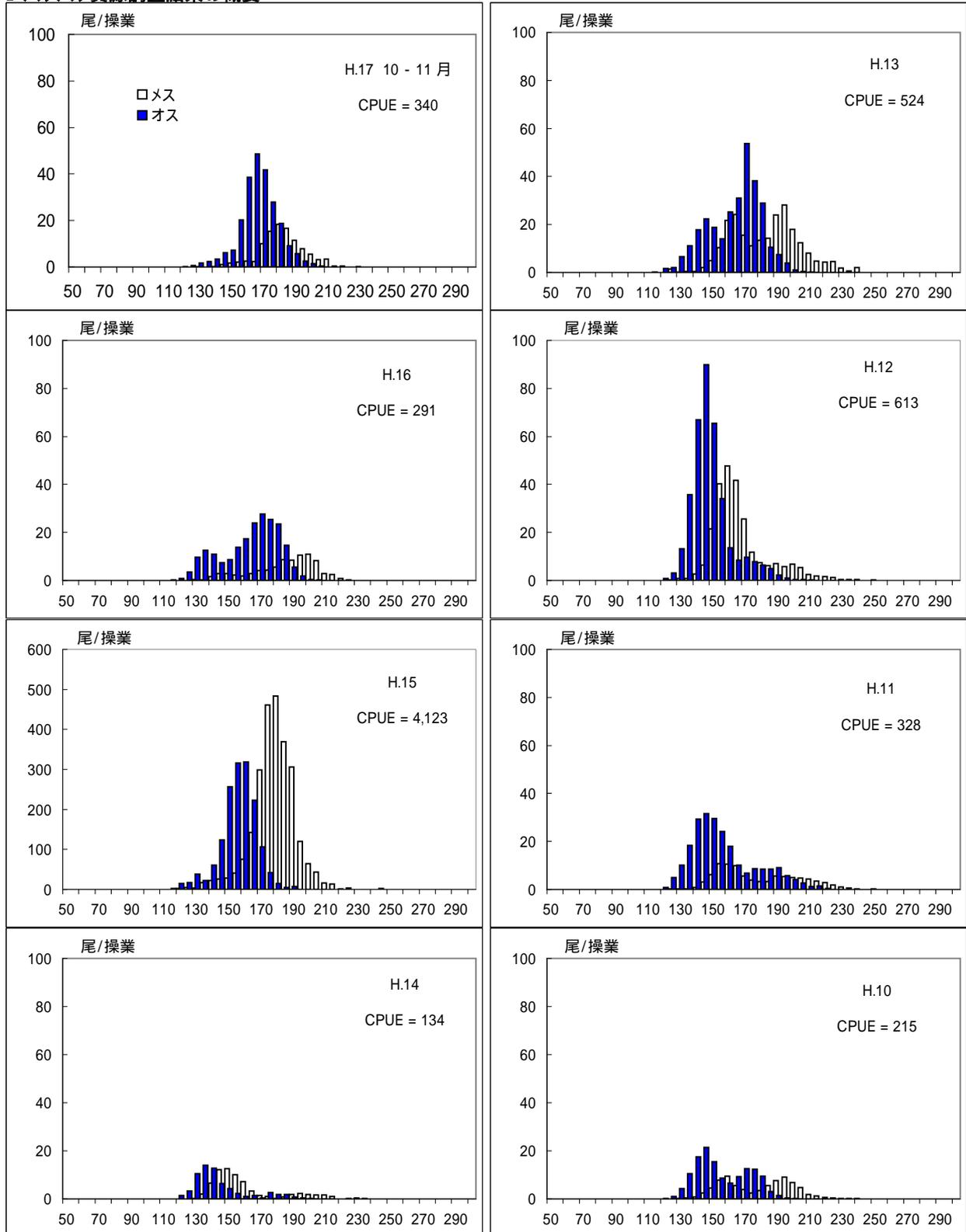


図8 1操業当たり尾数により重み付けした体長組成(10～12月の千秋丸操業結果)

・接岸前の底びき網漁場においては、3歳魚(平成15年級)主体の組成であり、4歳魚(14年級)及び2歳魚(16年級)の接岸は少ないものと推察された。

表2 試験操業1回当たりのハタハタ漁獲尾数

月	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17
1	46.4(9)	35.5(10)	95.2(13)	288.5(16)	521.2(13)	26.2(6)	-	597.8(4)	89.7(6)	469.0(1)	29.8(6)	2.3(4)	17.0(1)	-	114.3(4)
2	35.8(6)	5.0(2)	398.3(13)	286.8(4)	189.2(13)	23.5(4)	95.4(7)	126.3(6)	10.2(4)	8.5(2)	21.5(4)	26.5(2)	8.0(1)	196.3(4)	78.5(2)
3	59.2(8)	42.3(13)	271.5(11)	226.9(7)	14.1(9)	50.4(11)	389.0(4)	91.3(9)	466.0(3)	33.8(4)	2722.3(3)	92.5(2)	7.5(2)	349.8(5)	64.3(8)
4	58.4(2)	22.7(4)	545.5(2)	-	33.2(9)	181.4(5)	496.7(3)	342.5(6)	627.0(4)	31.0(2)	1092.0(1)	47.0(3)	145.8(4)	306.0(4)	1071.6(6)
5	-	-	-	-	-	-	210.2(5)	70.2(13)	685.3(4)	150.0(4)	2611.0(2)	5331.2(2)	204.8(4)	1275.0(3)	150.1(7)
6	36.0(7)	5.3(3)	0.0(2)	24.0(3)	30.0(8)	45.2(6)	151.4(8)	19.5(11)	58.2(6)	72.2(5)	38.7(3)	3126.7(1)	81.0(5)	765.8(6)	374.3(7)
7	1.5(3)	7.4(7)	22.9(8)	29.9(7)	138.8(9)	22.6(8)	-	-	-	-	9.0(2)	-	-	-	-
8	29.7(10)	12.4(14)	11.5(8)	55.3(7)	115.3(4)	188.0(4)	33.5(2)	149.5(6)	1916.5(2)	105.0(2)	215.0(2)	26.0(2)	1.0(1)	5.0(3)	199.7(3)
9	37.8(16)	19.1(9)	113.4(14)	248.0(7)	392.6(8)	88.5(15)	104.0(5)	75.0(6)	90.5(2)	208.0(1)	318.3(3)	29.3(3)	121.4(9)	64.4(5)	5.2(5)
10	43.8(12)	56.6(10)	636.7(4)	528.6(5)	82.3(4)	150.8(6)	495.3(9)	98.3(3)	108.6(5)	29.3(4)	295.5(4)	107.3(3)	229.2(6)	70.6(5)	58.2(5)
11	76.2(19)	33.6(5)	125.3(7)	528.3(8)	40.4(9)	236.0(9)	452.3(9)	213.3(9)	310.6(5)	110.8(4)	896.5(2)	126.0(1)	2364.0(1)	563.2(5)	1044.4(2)
12	97.4(13)	195.0(2)	160.4(7)	124.0(7)	42.3(8)	295.6(5)	225.3(6)	335.7(3)	922.0(2)	2060.3(3)	581.0(3)	221.0(1)	16684.0(2)	34.0(1)	-
1-6月	46.1(32)	31.9(32)	255.9(41)	247.4(30)	190.4(52)	62.0(32)	221.3(27)	146.0(49)	280.6(27)	91.3(18)	782.2(19)	1012.7(14)	108.7(17)	553.5(22)	330.3(34)
9-12月	64.1(60)	49.8(26)	191.7(32)	350.9(27)	143.9(29)	166.7(35)	358.6(29)	174.8(21)	294.4(14)	579.1(12)	472.7(12)	94.6(8)	2122.2(18)	220.3(16)	200.4(12)
年計	53.5(105)	32.2(79)	189.9(89)	246.4(71)	167.9(94)	110.8(79)	283.5(58)	154.2(76)	361.1(43)	275.1(32)	599.5(35)	624.4(24)	1112.4(36)	383.4(41)	296.4(46)

()内は操業回数

・9～10月は平年を下回る漁獲状況だったが、11月はほぼ平年並みとなっている。

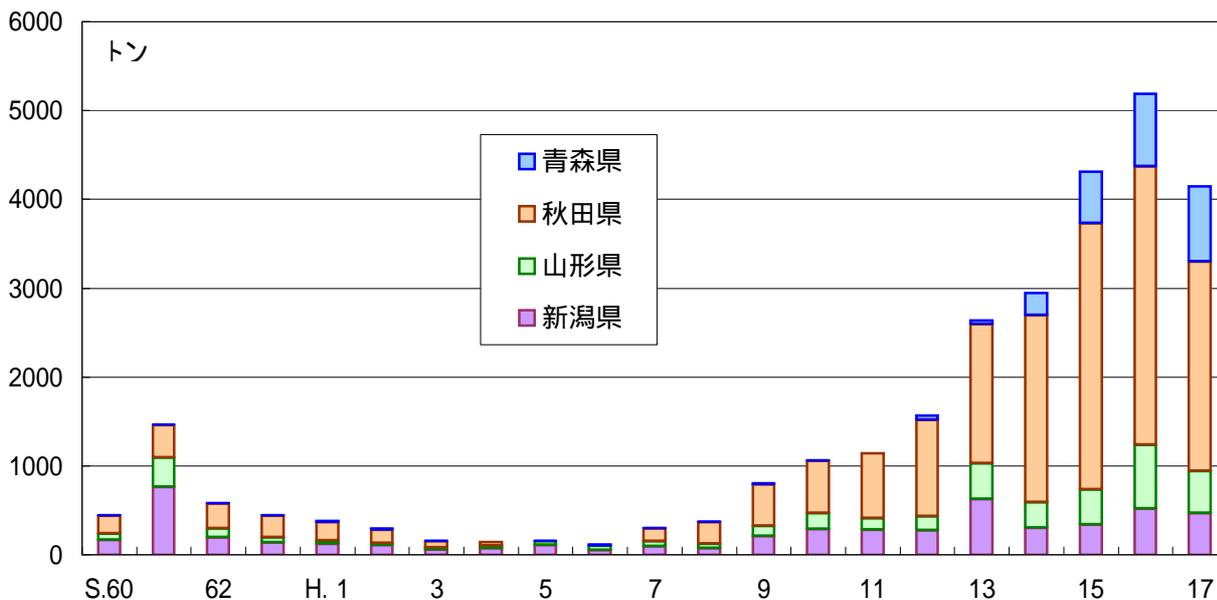


図9 日本海北部4県漁獲量の推移

- ・4県の合計は4,144トン。前年比80%と、平成7年以降初の前年割れとなった。
- ・県別には青森844トン(前年比103%)、山形475トン(66%)、新潟470トン(91%)で、本県(75%)及び山形県の減少が大きい。
- ・隣県の沿岸漁獲量は、青森794トン、山形5トンで、青森は前年並み、山形は前年比1割以下に減少した。

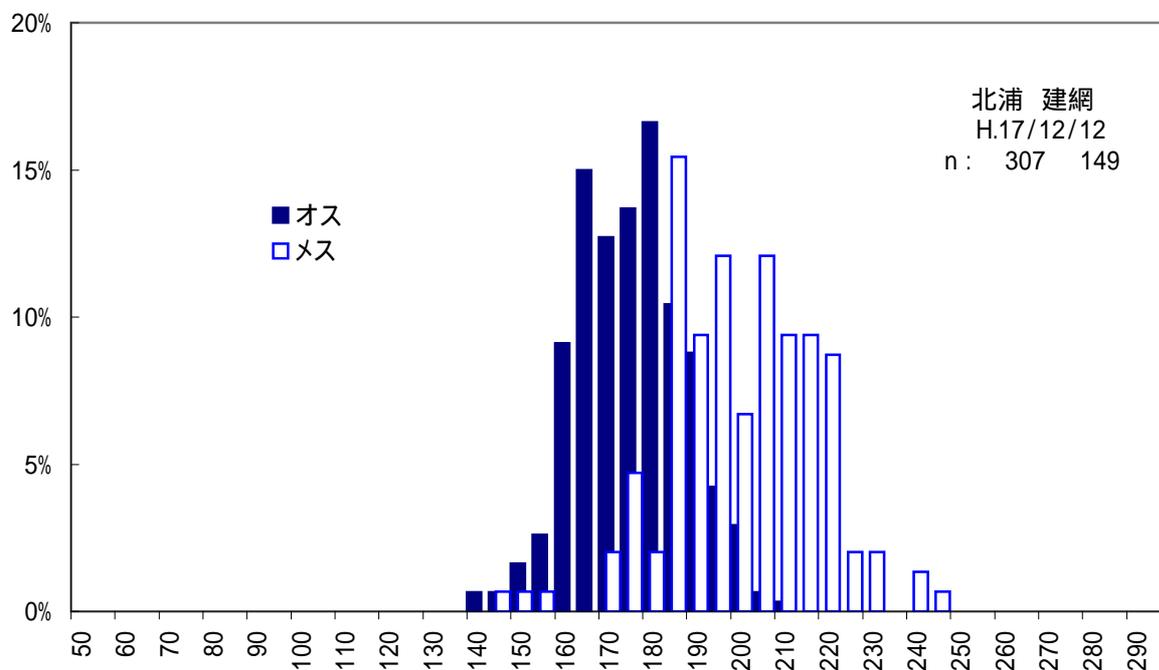


図10 沿岸漁獲物の体長組成 (北浦地区建網)

- ・漁期前の予想どおり、小型の2歳魚の割合は少なかった。
- ・しかし、3歳魚主体の中型の組成となるとい見込みに反し、大型(オス18cm以上、メス20cm以上)の割合が大きかった。
- ・4歳魚(14年級)の獲り残しが多く、また、接岸期に急速に集積したためと考えられる。

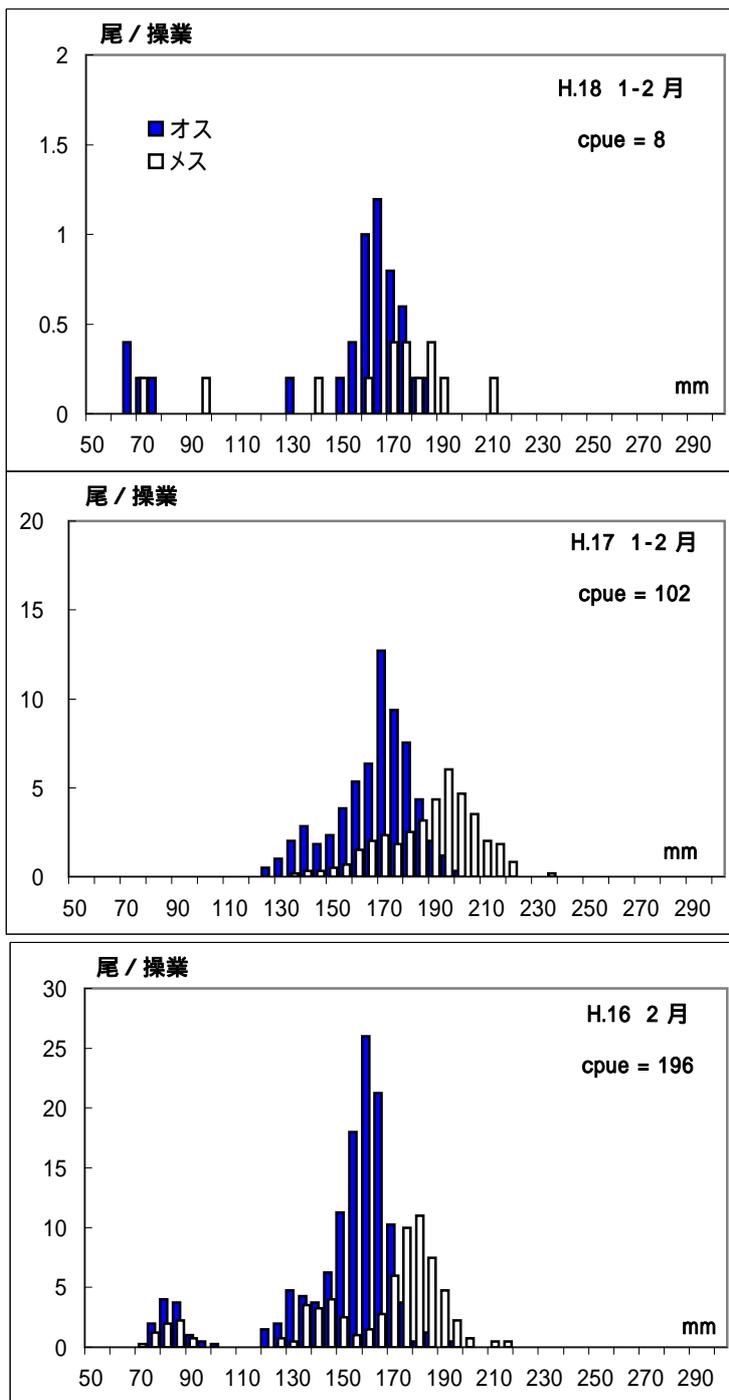


図11 1～2月期の千秋丸試験操業結果(1操業当たり体長組成)

- ・ 接岸産卵後の逸散が甚だしく、底びき網漁場では、出荷サイズがほとんど出現しない状況となっている。
- ・ 16年級(オスで13～15cm、メス14～16cm)の割合は少ないが、9.5cm以下の17年級が幾分出現している。

表3 ハタハタ卵塊密度(単位:個/m²)の推移

地区	定点	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
岩館	St. 1						26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.6	14.9
	St. 2	9.7	1.2	7.6	7.6	1.5	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	41.3	
八森	St. 1(雄島)	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0		
	St. 2(二ッ森)	1.7	0.2	1.3			0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	36.7	20.4
	St. 3(漁協脇)				27.4	39.7	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0	97.9
	St. 4(滝ノ間)								53.2	192.8	112.8		
北浦	相川St. 1	1.5	0.6	2.0	10.2	2.2		1.6	0.2	91.9	0.0		
	相川St. 2	2.1	0.6	1.7	6.6	4.4	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.2	3.2
	相川St. 3		1.8										
	相川St. 4		2.3									16.7	
	八斗崎St. 1(0.5m)	1.0	1.4	2.0	0.6	5.3	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	13.3	2.9
	八斗崎St. 2(1.5~2m)	0.1	0.6	3.1	6.3	3.9	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1		0.5
	八斗崎St. 3(2m)								7.7				
	八斗崎St. 4(3m)								17.2	57.2		41.1	
	八斗崎St. 5(4m)								13.0		87.7		8.2
八斗崎St. 6(6.5m)									21.6				
野村		0.0	0.5	0.0	0.0	1.8	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	7.2	13.6
湯の尻	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8	2.1
	St. 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6	10.0
戸賀	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6	0.1
	St. 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4	3.2
	St. 3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4	8.6
台島	St. 1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6	0.0
	St. 2							0.5					
女川	St. 1							4.8					
	St. 2							2.3					
船川	備蓄St. 1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1.4				
	備蓄St. 2						1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	62.5	61.6
	金川St. 1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1	0.0
	金川St. 2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7	0.0
平沢	St. 1	2.2	0.1	0.3	0.0	9.0	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9		6.5
	St. 2(鈴分港)	0.5	1.5	1.1	9.0	10.4	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	210.4	51.5
金浦	St. 1	0.8		1.1	4.3	0.0	0.0	60.0	0.6				
	St. 2(飛分港沖側防波堤)						8.0	57.0	1.3				
象潟	St. 1(小澗分港)						21.2	1.5	0.0				
	St. 2				27.0								

・県北部地区(岩館及び八森)、北浦周辺地区(相川、八斗崎、野村及び湯の尻)並びに県南部地区(平沢)の卵塊密度の平均値は、平成7年と比較し22.4倍となったが、前年比では33%と減少した。

・地区別では県北地区で59.2個/m²(昨年度29.9個/m²)、北浦周辺地区で5.8個/m²(同14.7個/m²)、県南地区で29.0個/m²(同210.4個/m²)と、北浦周辺地区と県南部地区で落ち込んだ。

・大雪による調査時期の遅れが、卵塊数の減少に影響している可能性がある。